

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立山崎高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、主任教諭（生徒部副主任兼務） 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任兼務）、主任教諭（生徒部主任兼務）、主任教諭（進路部主任兼務） 計6名
- (4) 協議委員の構成
山崎団地自治会長、町田市青少年健全育成忠生第五地区委員会会長、町田市役所、町田警察署、町田消防署忠生出張所長、東京家政学院大学教授、桜美林大学教授、町田市立中学校校長会長、山崎高等学校同窓会会長、山崎高等学校PTA会長 計10名

2 令和5年度学校運営連絡協議会・評価委員会・防災委員会の概要

- (1) 学校運営連絡協議の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和6年5月31日（金） 内部委員6名、協議委員9名
令和6年度学校経営計画、令和5年度学校経営報告、令和6年度各分掌・学年の取組について
第2回 令和6年9月27日（金） 内部委員6名、協議委員4名
校長報告、各分掌・各学年による中間報告
近況報告（いじめ案件、防災活動、海外派遣研修、ユネスコスクール関東ブロック大会、3年生の進路希望別数、生徒面接練習、夏季休業中の講習数と参加者数）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討、協議
第3回 令和6年11月1日（金） 内部委員6名、協議委員6名
前回の御意見の回答、いじめ案件の報告、令和6年度学校評価アンケートの内容について
令和6年度各分掌・学年の目標に対する中間報告
第4回 令和7年2月13日（木） 内部委員6名、協議委員8名
令和6年度学校評価アンケートの集計結果について
授業評価アンケートの結果について
数値動向一覧から
各分掌・学年の今年度の目標に対する成果と次年度に向けての課題

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：534人 回収：518人 回収率：97%
 - ・12月 保護者全員 対象：534人 回収：153人 回収率：28%
 - ・12月 教職員 対象：34人 回収：30人 回収率：86%
 - ・12月 地域・住民 対象：8人 回収：8人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、授業・教育課程、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、学校生活、広報活動、施設・設備、ライフワークバランス等
- (4) 評価結果の概要・分析・考察
 - ・「授業の満足度」80%、「習熟度別授業の満足度」74%と、ともに生徒の多くが満足していると回答しているが、いずれも昨年度を下回る回答であるため、一層の工夫・改善を図っていきたい。
 - ・「進路指導は充実している」生徒73%、保護者68%、「個別の進路相談に適切に応じている」は生徒80%、保護者79%とおおむね高い回答率であるが、いずれも昨年度をやや下回る回答である。
 - ・「授業規律」「学校のルールやマナーを守っている」、「通学のルールやマナーが守られている」・「SNSや情報モラルが守られている」についてはいずれも、生徒、保護者ともに80%以上の回答であるが、「通学のルールやマナーが守られている」・「SNSや情報モラルが守られている」については、教職員は低い回答が多く、意識のずれが見受けられる。このことから一部の限られた生徒に改善が見られない者がいると考えられる。さらに、地域から自転車マナーに関しての意見が出ているので、指導を徹底していきたい。
 - ・「山高に入学して（させて）良かった」及び「充実した高校生活を送っている」は、生徒はそれぞれ60%、73%、保護者は80%、88%であり、保護者からはいずれも高い回答であった。

- ・「学校は生徒や保護者からの連絡や相談に適切に対応している」は、生徒 70%、保護者 82%であり、いずれも昨年度を下回っている。
 - ・「学校の施設や設備に満足している」は生徒 56%、保護者 65%であった。一足制を導入したことにより、一層、校内美化に力点を置くことが必要である。
- (5) 自由意見（生徒・保護者からの否定的意見及び要望、地域の方からの御意見）
- (生徒から)
- ・「マナーが悪い生徒をなんとかしてほしいので、校則を見直してほしい。」
 - ・「校舎が全体的に汚いので、もっと”生徒に”しっかり掃除をさせてほしい。」
 - ・「定期考査を年3回にするのならせめて、小テストや単元テストの日程が被らないようにしてほしい。」
- (保護者から)
- ・「自分で考えることを重視した校則に変わりましたが、現在の校則の意味を理解できているのか？と思うことがある。」
 - ・修学旅行をなくしたこと、一足制に移行したこと、に対する否定的な意見が多くみられた。
- (外部探究支援員の方から)
- ・「探究授業の時に、担当しているクラスの生徒が、全く何もしないで好きなことをしたり、机に顔をうずめたりしている生徒がいます。(担当の先生は注意している)」

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
- ・様々な立場から、本校の地域と連携した教育活動に対する評価
 - ・地域の方々の本校に対する期待の大きさを知ることができた。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題
- ・本校の学校改革に対する評価と地域からの期待について
 - ・授業の改善について
 - ・家庭学習の取り組みについて

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学習指導・進路実現についての取組

本校の入学選抜の方法から学力の個人差が見られるため、基礎・基本をわからせる授業も当然大切であるが、それ以上に生徒が学びたくくなるような授業の工夫が求められる。このような授業を行うことにより、家庭での学習時間の増加を目指していく。また、生徒の学力向上のために模擬試験の分析や個人面接の充実を図っていく必要がある。引き続き、生徒が主体的に学習に取り組める環境を設定するとともに、検定の取得などに積極的に取り組める環境を整備していく。

(2) 行事・部活動についての取組

学校行事や部活動の充実に対する要望が多くあった。クラス減により、部活動の参加者が減少している事実を改めることは困難であるため、今年度は設置部活動の数の見直しを図り、大会参加ができるやりがいの持てる部活動を増やした。次年度以降も継続した部活動の見直しを図っていく。また、部活動に参加できない生徒のために委員会活動の充実を図り、全生徒がいずれかの委員会に所属し、充実した活動ができるように次年度も継続して設置委員会の見直しを図っていく。

(3) 学校の決まりについての取組

学校の決まりに関しては、毎年見直しを実施しており、教員だけでなく、生徒代表、保護者代表とともに互いの意見を尊重し、改善を図った。また、一律の指導というよりも教科ごとに授業への取り組みの状況が異なることはありうるという観点から教科ごとに授業規律を徹底するための決まりをつくらせ、教員間での指導のばらつきや生徒間での意識の差を埋めていくことを一層徹底していく。

(4) ユネスコスクールとしての取組

ユネスコスクールとしての取り組みを本校の教育活動の根幹に据え、全教科でESDの取り組みを推進する。また、総合的な探究の時間（人間と社会）における地域交流や国際交流等を通じて、平和で持続可能な社会の実現を目指すための活動を行っていく。さらに、近隣の幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を強化し、外部人材の活用も積極的に行っていく。

6 その他

- ・保護者のアンケート回収率を高めるため、アンケートの配布時期と回収の方法の検討が必要であるとともに周知方法について見直しを図る。